

第4期熊本県立大学食育ビジョン (R6~R11)

熊本県立大学学生の食生活の現状と課題

本学学生を対象とした食生活調査における「大学生の食生活と健康維持」に関する令和4年度の調査結果から、平成28年度と同様の問題点が示された。立ちくらみやだるさ・疲れ・便秘など、体調に課題がある状態が継続している。不確実で予測困難な時代、いわゆるVUCA*時代といわれる現在、食生活を自己管理する力が身につけていない学生が多くみられる現状は、生涯を通じて学び続ける姿勢を「食」の領域でも備えていくことの重要性が一層増しているといえる。学生自身が主体者として健全な食生活を自己管理できるよう、方法に一層の工夫を加えることが必要である。 ※VUCA（ブーカ）とは、Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）という4つの単語の頭文字をとった言葉で、目まぐるしく変化する予測困難な状況を意味する。

本学のシーズ

文学部、環境共生学部、総合管理学部の3学部からなる本学では、前身の熊本女子大学から続く食と健康に関する人材育成や研究開発の実績に加え、郷土料理など食文化の保護・発信、マーケティングや政策的視点からの地域の食資源の開発を行っている。併せて、地域に学ぶ複数の学生グループと密に連携し、学生が主体者となる食育の推進に努めている。

なお、長年にわたる活動が認められ、第1回食育活動表彰教育関係者・事業者部門で「農林水産大臣賞」を受賞し、令和4年度受審の認証評価においては長所として評価されるなど、本学の特色ある取組として定着してきている。

基本理念：地域に学び、地域に伝える食育

- ① 学生が、将来にわたる自分の健康の主体者として健全な食生活を自己管理できることをめざす。
- ② 本学は、地域の食資源をもとに、本学学生の食と健康に関する理解を深め、食生活を通して健康を自己管理できる人材を育成する。
- ③ 本学は、専門的知見を有する人材を育成し、地域の食に関する課題解決に貢献する。

3つのアクションと地域との往還

